⑪

3A　かわら版

国王へ

一　蒔絵硯箱　一ツ
一　同机　二脚
一　書棚　一
一　廣蓋　二組
一　蒔繪花生　一組
一　同　手炉
一　置物　一ツ
一　紅羽二重　十匹
一　白羽二重　十匹
一　紋縮緬　八匹
一　板〆縮緬　十匹

船大将十九人へ

一　紅羽二重　五匹づゝ
一　板〆　三匹づゝ

使節へ

一　蒔繪硯箱　一ツ
一　紅羽二重　三匹
一　白羽二重　二匹
一　紋縮面　三匹
一　板〆　三匹
一　惣仕官へ
一　吸物椀　十人前づゝ
乗合惣中へ
一　米　五斗入　三百俵
一　鶏　三百羽

通弁官

一　板〆　三匹づゝ

通弁官

一　板〆　三匹

長さ　三十八間、巾　十五間、帆柱　三本、石火矢　六挺
大筒　十八挺、水車　四間半　水に入所る　一艘乗込　三百人

⑫

一　今般前条之通、大統領よりの貢物も捧候儀に付、公辺よりも彼方へ被贈遣物有之、大学頭初へも異人より贈物もいたし候由に付、右返礼品等も有之由にて、同月十七日・十八日頃両日ほどに右被遣物、江戸表より神奈川宿へ相廻り候由、且被下米の儀は横浜村おいて手当被申付候由に相聞候処、如何の模様に候哉、右御米の儀、公義御勘定所御用聞町人共の内へ被仰付、深川辺より神奈川宿迄相廻り候由、夫に付御入用の趣にて相撲取共多人数呼寄相成候由の処、右の者共打揃、旅行等いたし候ては相目立、不可然哉にて、其段相撲年寄共へ談相成、去る二月十六・七日頃にも候哉、夜中、本所回向院前、年寄伊勢屋五太夫方等へ相集り、両国辺より船路神奈川宿へ罷越、程ヶ谷宿おいて旅宿致候由相撲名前左の通の由

荒熊力之助　荒馬吉五郎
雲早山銕之助　象ヶ鼻灘五郎
一力忠五郎　響灘立吉
寶川石五郎　荒岩亀之助
谷嵐市蔵　黒崎佐吉
花篭平五郎　玉川浪五郎

（中略）

惣人数六拾九人
右人数の外、行司木村庄之助其外附添の者も罷越候由

⑬

一　去る二月廿六日、大学頭初異人への為応接、辰刻過、天神丸御召船へ乗船、上下渡船にて横浜村へ罷越候由、（中略）扱同日の儀は先達て大統領より公邉へ献貢物もいたし、大学頭初役々へも夫々送り物致候付、右為御挨拶、国王初へ被贈遣物、左の通の由

（中略）

右船中の惣異人へ被下品の内、御米五斗入俵の由、弐百俵程、仮家前左り脇小土手際へ積上げ有之候由の処、異人上中官応接所へ通り候以後にも候哉、兼て御呼寄に相成居候相撲共、素裸取廻しにて出立、右弐百俵程の御米、壱人弐俵づゝ両手に携、或ひは肩に懸、又は御米積上げ候俵杯へ上り、陸地に罷在候相撲共の内へ投与へ杯致皆々異人乗来候。バッテイラ際浜手迄運送いたし、異人へ相渡候由之処、右異人共壱俵に両三人懸りにて端船へ釣込候由、其後應接仮家後口の方に土俵場を為設、同所おいて俗に幕之内と相唱候相撲共、小柳常吉を初め、三人請、或ひは弐人請杯と申、相撲稽古取杯、對馬守初好の由にて相始、使節其外上官の分仮家裏窓より見物為致、異人共儀も暫興に入候躰哉にて詠居候由。